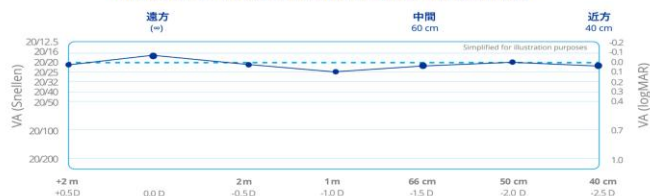


Clareon® PanOptix® Trifocal IOL

新しいものを見る力と遠くを見る力



PanOptix® は、遠方・中間・近方でおおよそ1.0に近い優れた全距離視力を実現します^{1,2}



PanOptix® は遠方・中間・近方の各距離でクリアで快適な見え方を実現します³



患者様にとって快適な60cmの中間焦点距離⁴

PanOptix® は遠方・中間・近方の各距離でクリアで快適な見え方を実現します³



従来の3焦点レンズの中間焦点距離60cmに対し、PanOptix® はより快適な60cmの中間焦点距離を実現しました。

白内障手術は、主に加齢が原因で濁った水晶体を取り除き、代わりに眼内レンズ（人工水晶体）を挿入することで視機能の回復を図るものです。

眼内レンズには、ピントの合う範囲が近方もしくは遠方のいずれか1カ所に限られる「単焦点眼内レンズ」と、複数カ所にピントを合わせることでより広範囲の視力を補正する「多焦点眼内レンズ」があります。これまで日本で薬事承認を受けた多焦点眼内レンズは2カ所にピントが合う2焦点眼内レンズのみでしたが、PanOptix®は遠方・中間・近方の3カ所にピントを合わせることができる3焦点眼内レンズです。



<PANOPTIX®の製品特徴>

実生活での作業に適した遠方・中間・近方の見え方を提供

- 読書やスマートフォン使用などに適した「近方（40センチ）」、パソコンや料理などに適した「中間（60センチ）」、テレビ視聴や運転、ゴルフなどのスポーツに適した「遠方（5m以遠）」にピントが合うように設計^{1,5}
- 国内での臨床試験⁶では、手術後120～180日において両眼かつ裸眼での0.7以上の視力達成率は、遠方、中間のいずれも98.5%。また、近方においても両眼かつ裸眼で0.4以上の視力達成率98.5%と良好な結果

明るさの変化の影響を受けにくく、安定した見え方を実現

- 従来の多焦点レンズに比べて、明暗の変化による瞳孔収縮の影響を受けにくい設計

高い光利用率（88%）^{7,8}により、遠方・中間・近方のすべての距離において鮮明な視覚を提供

- 眼内レンズを通して眼内に入る光エネルギーをより多く網膜に到達させることができるため、鮮明で質の高い見え方を提供

手術後約94.8%の患者様が眼鏡不要に

- 遠方・中間・近方にピントが合うことで、単焦点や2焦点眼内レンズに比べ、実生活における眼鏡への依存度が低減
- 術後9カ月～12カ月の患者58名を対象にした海外での調査結果¹では、94.8%の患者様が術後に眼鏡が不要になったと回答しており、高い満足度を獲得

実績のあるプラットフォームを採用し、優れた安定性を提供

- 1994年の発売以来、世界で1億2千眼の挿入実績を誇る眼内レンズのプラットフォーム「アクリソフ®」を採用。アクリソフ®はアルコン独自の技術・デザインにより、後発白内障（PCO）[※]の抑制、術後のレンズ固定位置の安定性、ヒトの水晶体に近い網膜保護効果が特長。

※後発白内障（PCO）とは、白内障手術後に水晶体囊の中に残った少量の細胞がしばらくたって増殖し、水晶体囊が濁り、進行することで視機能が低下することです。

